

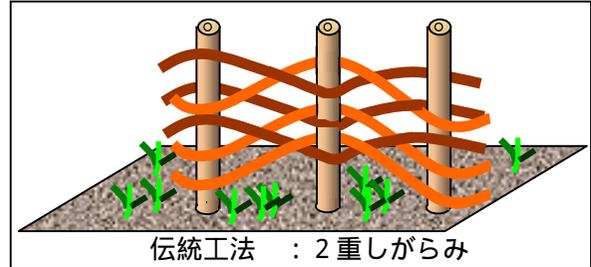


アザメ新聞は相知町佐里下地区で行われている自然再生事業の進展をお伝えする新聞です。この事業は住民参加の事業で、どなたでも検討会に参加できます。

Vol. 10では第13回、第14回検討会での模様をお伝えしました。

Vol. 11では第15回検討会、第16回検討会、イダ嵐等のイベント、第17回検討会をお伝えします。

第15回検討会開催 H15.2.4

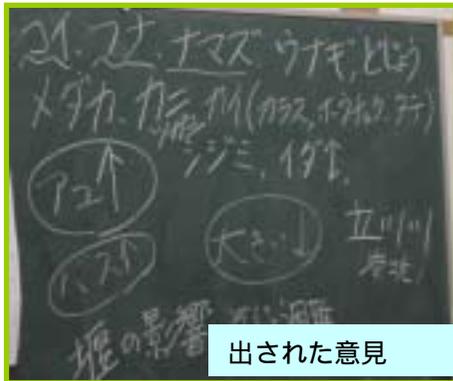


伝統工法 : 2重しがらみ

増えた魚介類	アユ、ブラックバス、ブルーギル
変わらない	タナゴ、イダ
減った魚介類	コイ、フナ、ナマス、ウナギ、メダカ、ドジョウ、ハヤ、貝(カラスガイ、シジミ、ホウチョウガイ、タキガイ)、ツガニ

今回の検討会ではアザメの瀬工事の現状報告、今後の事業計画と、アザメの瀬の昔と現在についての聞き取りを行いました。

そのなかでアザメの瀬地区より約5km上流の駒鳴捷水路が完成したことで水位上昇のスピードが速くなったように感じるといった意見や、今後松浦川を拡幅する計画がありアザメの瀬橋の架け替えによって橋の長さが約1.5倍になると報告されました。橋梁の拡幅等については今後議論していくこととなります。



出された意見

聞き取り調査では、昔はアザメの瀬で洪水の度に運ばれてくる土砂を防ぐため、伝統工法である 木で編んだ「さな」や、杭の間を木のツタで結んだ「2重しがらみ」などを地元の仕役(区役)として作ったことなどや、昔と比べ魚種によっては減少したり増加したといった話を聞くことができました。今後、貴重な意見を伺うため、アザメの瀬に関してアンケート調査を行っていきますので、ドンドンご意見お聞かせ下さい。

第16回検討会開催 H15.2.13

「アザメの瀬は日本国民全部の財産になる . . .」

「環境はその川の人にしかできない、だから行政ではできない、

地域の人がやるしかない」

「行政ができるのは土台まででその上部構造は地元の活動の中でできるものだ」

第16回検討会では前国土交通省河川局長の竹村公太郎氏を迎え、「川と人間」と題して講演を行っていただきました。日本の川は外国の川に比べ水がすぐ流れてしまうことや、近年の災害は元々人間が住めなかった場所にも人が住むようになって起きるようになったこと、文部省の調査結果から子供達に「自然体験」を行わせることが、社会規範・秩序を守る精神を形成させる力をもつことがわかったなどさまざまなことを講演していただきました。



アザメの瀬を見学する竹村氏と説明する大草相知町長



講演の状況



質問にも思わず熱がはいる！

今後も学識経験者等を迎えて、このような講演を行っていただこうと考えています。こういった貴重な機会にぜひ参加して、幅広い知識を吸収し視野を拡げて、よりよいアザメの瀬を築いていけるようがんばっていきましょう！一緒に頑張りましょう！

アザメの会が動き出しました ~ 活動開始 ~



15.2.10現場説明(佐里小学校)



15.3.9イダ嵐見学の様子



15.3.9イダ嵐参加者への事業説明



15.3.9イダ嵐見学会開催



15.3.14佐賀水会議でのブース展示

14年12月に立ち上がった“アザメの会”ですが、その後各種イベントを実施する一方、3月14日に佐賀市で行われた「佐賀水会議」ではポスターセッションを行い、アザメの瀬を説明するなど、積極的にアザメの瀬のすばらしさ、意義等を幅広い方々に説明しています。

“アザメの会”の活動を通してアザメのすばらしさが多くの方々に広まっていき、アザメの瀬を見に来る方や検討会に参加する方が増えるものと予想できます。これから夏にかけて、子供達と一緒に魚捕りや植物調査といったイベントの企画が考えられます。
今後の“アザメの会”の活動に注目です。

第17回検討会開催！ H15.3.27

公募研究者が決まりました！！

公募していましたアザメの瀬での研究は以下のようにになりました。遠くは東京、大阪、和歌山から研究のためやってくるようになります。今後アザメの瀬に調査に来られることとなりますが、その際は協力をお願いすることになるかもしれません。その際はよろしくお願ひします。

研究者	所属	研究課題
桜井慎一	日本大学 理工学部 海洋建築工学科	CVMによるアザメの瀬の経済価値評価に関する研究
山口裕文	大阪府立大学 農学生命科学研究科	アザメの瀬自然再生過程で復元する植物種の自然適性に関する生態遺伝学的評価研究
西廣 淳	東京大学大学院 農学生命科学研究科	アザメの瀬における植生復元への土壌シードバンク利用可能の評価
望月俊宏	九州大学大学院 農学研究科	アザメの瀬自然再生過程における土壌養分とバイオマスの評価
増田泰久	九州大学大学院 農学研究科動物資源科学部門 家畜飼料生産利用学分野	イネ科草本群落の成立と哺乳類の動向 ~特にカヤネズミの移入・定着~
中島敦司	和歌山大学 システム工学部	自然再生事業による生物相復元効果の指標開発

アンケート調査を実施します！！

今回、独立行政法人土木研究所自然共生研究センターと協力して、『アザメの瀬 自然再生事業』に関するアンケート調査を行うこととなりました。アンケート内容は、「自然環境に興味がある」「昔と比べて川にいる生物が変わった」「自然再生事業に関する意見」等の質問をしており、全部で13ページに及びますが、回答は全て選択方式であるため、手間はかからないかと思ひます。

今後、事業を進めていく上で貴重な資料となりますので、御協力をお願いいたします。

今回、泊課長、中山係長、今村・井上技官が転勤することとなりました。今後新体制となりますが、彼らの志を引継いで、頑張りますのでよろしくお願ひします。



別れの挨拶を行う転勤者

編集後記

一次掘削が終わり、皆さんにおかれても事業のイメージが以前にも増してつかめつつあると思ひます。今後さらに事業をすすめていくなかで、事業地内に生物が生息したり、植物が芽生えてきたりと新たな発見・変化を目にすることが出来ると思ひます。

今後一層アザメの瀬から目が離せませんよ！！
国土交通省武雄河川事務所 <http://www.qsr.mlit.go.jp/takeo/>
国土交通省武雄河川事務所調査課 Tel 0954-23-7933 Fax 0954-23-5193